



10月号 令和元年9月30日発行

荇田小だより

横浜市都筑区荇田南町694番地 [TEL.911-0149]



実りの秋

～地域・保護者と学校が協働して学校を創っていく～

校長 伊藤 智樹

「今年の田んぼはまだ水が少し残っているなあ」「去年に比べてお米の量はどうかかな」「穂を下に揃えて持って行ってね。」先日の9月25日(木)に行われた稲刈りでの聞こえてきた子どもたちの会話です。また、校庭田んぼにはカエルやカマキリ、外田んぼや用水路にはザリガニやカニなどが例年に比べ多く生息していたようです。カエルを捕まえて縦割り班内で見せ合う姿を見て心が温かくなりました。当日は30名以上のボランティアの皆様方に子どもの活動のご支援を頂き、ありがとうございました。



本校の特色ある教育活動の一つである「米づくり」。昭和51年に始まった米づくりは、今年で44回目を迎えました。学校と地域が一体となってたくましく心豊かな荇田っ子を育てたいと始められた米づくりです。面積が減ったとはいえ、近隣の学校に比べると規模は大きく収穫量も多いです。

「地域・保護者と学校が協働して学校を創っていく」荇田小学校に赴任して半年がたち、この言葉を実感することが多くあります。季節毎の花壇の整備、読書ボランティア、全校遠足や米づくりをはじめとする各種行事や学習活動への保護者・地域の方々による様々な教育活動へのボランティア活動が常時あります。地域の中で健全に育つ子どもをサポートする「強力な応援団が地域にある学校」といえます。



しかし、このような学校が一朝一夕に築かれたわけではありません。子どもたちに少しでもよい教育の環境を創ろうと、荇田小学校を支え、育てようとした歴代の先生方や保護者・地域の方々のご尽力があったからこそ、このような学校に成長したのです。学校教育は、子ども達が人間としてよりよく生きていくための基礎基本を身に付ける場だと思えます。

来年度から新学習指導要領が全面実施となります。この新学習指導要領の背景に「社会に開かれた教育課程」という考え方があります。複雑で予測困難な未来社会の中でこれからも学校が社会の中の学校であり続けるためのキーワードです。地域の方のご協力や地域の物的資源を活用させて頂いたり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりして学校教育を学校内に閉じず、その目指すところを社会と共有・連携していくことを意味しています。

時代の変化に対応した教育内容を取り入れながらも、荇田小学校の伝統を守り、地域との交流を大切にしていきたいと考えています。そして荇田小学校の学校教育目標の子ども像でもある「つくろう明日わたしはチャレンジャー」を目指していきたいと思えます

